

倉橋賞をうけて

清水 エミ子

山下先生から賞状をいただき席にもどつて「おめでとう」と友だちに声をかけられて、はじめて自分が倉橋賞をいただいたのだと、我にかえりました。そして、うれし

さでふるえる手に力を入れ、もう一度賞状をよみかえたのです。よみおわった私は、うれしきをおさえきれず、そつと目をつぶりました。たのしく積木あそびをした子どもたちの顔と、私をほげまし御指導くださった諸先生がたの顔が、次々にうかんでくるのです。うかんでくるひとりひとりに心の中で、ありがとうございました御報告したのです。

そつと目をあけたその後で、私のむねに倉橋先生の「子どもは、いもの葉の上のつ

ゆですよ」とおっしゃったことばがうかんできました。――

朝の光を浴びてかがやいているおいもの葉の上のつゆの玉は、ちよつと、うごかせば形をかえるし、バラバラにもなる。そしてその小さい玉が集まって大きな水玉になったり、また葉の動かし方によつては、葉からすべりおちてしまつたりもする。落ちてしまつたつゆの玉は、よごれた土の中に形もなくきえてしまう。本当に私たち教師は一生懸命いもの葉の水玉を大きく育て、ますますかがやきを増すようにつとめなければいけないと思ひます。

それができるのも、できないのも「あなたの勉強と努力次第ですよ！」とおっしゃ

る倉橋先生のお声がひびいてくるように思ひます。

私のような未熟なものには、身にすぎた「賞」です。いいえ、「賞」ではなく、これは勉強がたりないから、これから一生懸命勉強いたします、と多くの先生がたの前で公約し、その約束を賞状という約束手形でわたされたのです。

幼児教育は、はてしなく長い、そして多くのまがりかどのあるけわしい道ではありますけれど、幼な子のひとりひとりを見つめ、そしてその美しい瞳にかこまれ、諸先生のげきれいに感謝しながら、みなさまの前でうけた約束手形を不渡りにしないよう、あせらず、今までの勉強を土台に一步一步ふみしめふみしめ、毎日の保育に専心してまいりたいと心を新たにします。

(東京・関屋幼稚園)